

約8割が7月、8月の2ヶ月間に集中している。特に死者数については、31人のうち1人を除き、7月または8月に集中している。

また、時間帯別の発生状況についてみると、午前中や午後3時前後の被災者数が多くなってことが窺えるが、いずれの時間帯でも発生している。死亡災害についても同様に、いずれの時間帯でも発生している。

#### 4 年齢別発生状況

2024年の年齢別の熱中症の死傷者数をみると、50歳代以上が全体の約56%を占めており、死者数については全体の約67%を占めている。

詳細は、厚生労働省ホームページをご参照ください。  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_58389.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_58389.html)

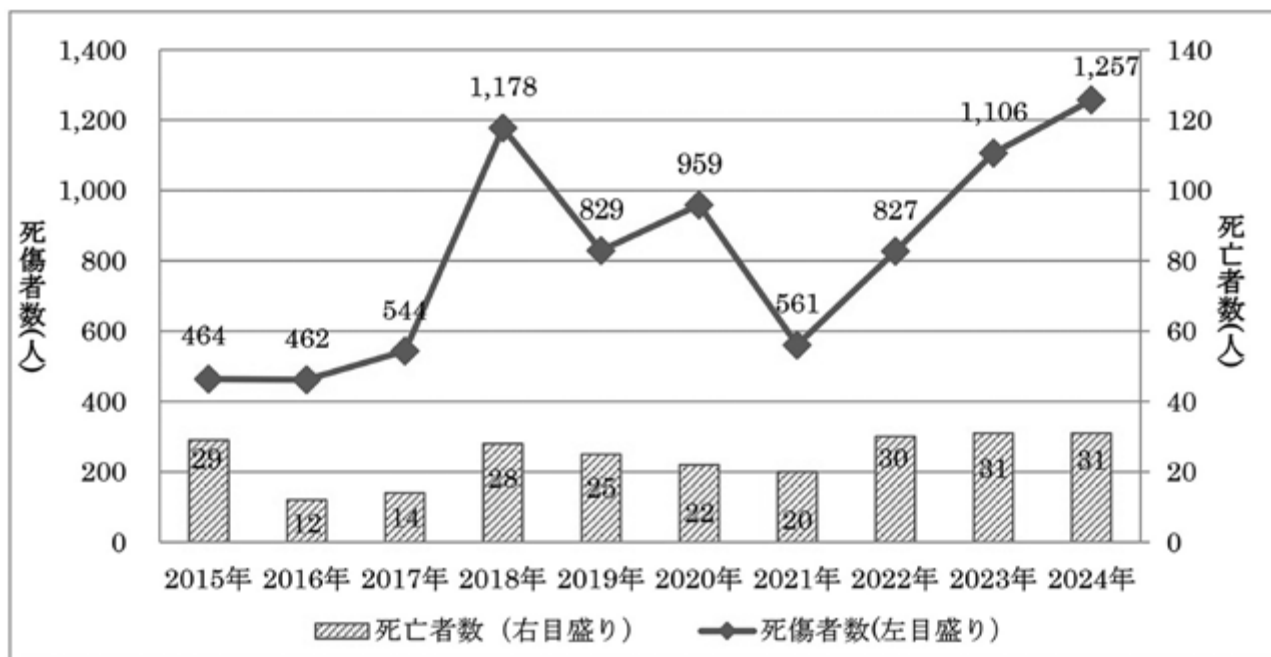


図 熱中症による死傷者数の推移（2015年～2024年）

#### フレームアイ

『仕事と暮らしに役立つタイミング マネジメント®』（第10回）「親と過ごす、介護を考えるタイミング」をつくる！

親にとってのベスト・タイミングを逃さない！

皆さんは親とあとどれくらい一緒に過ごせるかを考えたことがありますか？先日テレビである教授が親と過ごせる時間の解説をしていました。親と離れて暮らしている成人の人が1年間で親と会う日数はお盆に3日、お正月に3日などで、平均6日間。帰省をしても一日中親と一緒にいるわけではないので顔を合わせる平均時間は一日4時間。つまり、親元を離れて暮らす成人の子どもの場合は、一年間で親と過ごす平均時間は、4時間×6日間、24時間ということになり、一年にたった1日分しかないという計算になるということです。この計算式を使うと、親が生きて平均余命が親と過ごせる残りの日数になります。親の平均余命が20年の場合、一緒に過ごせる残り時間はあと20日となります。冷静に計算してみると意外と少ないと感じる人が多いのではないのでしょうか。一緒に話をしたり、笑い合ったり、食事をしたり、出かけたりする時間は有限であることを意識することが大切です。

私は94歳になる母の介護をしながら仕事をしていますが、周囲のご高齢の方に話を聞いてみると家族と一緒に過ごしたいと思うタイミングは「お正月、お盆」と答える方が多くいます。特に一人暮らしの方は「お正月、

お盆」に孤立・孤独感を感じる傾向があります。時間ができたら親に会いに行こうと思っていると月日があつという間に過ぎてしまい、「時すでに遅し」になってしまうことがあります。一年の行動計画を立てる際には、「会いたくて会えるとき、親孝行がしたくてできるときは限られる」ということを意識して、親にとってのベスト・タイミングを逃さないようにしましょう。

#### 介護について話すタイミングをつくる

厚生労働省のまとめによると、2023年の日本人の平均寿命は、女性が87.14歳、男性が81.09歳でした。高齢化が進み、女性は2人に一人、男性は4人に一人が90歳まで生きる時代になった今、介護は他人事では済まされない問題となっています。今は親が元気で問題がない場合でも、介護が必要となる前から将来を見据えて早目のタイミングで準備を進めていくことが重要です。

親が今70歳でもこれから先30年の老後が続くことが十分考えられます。そして長生きとともに健康面も含めた不安要素が増えていき、認知症を患う確率も高まっています。

組織において人手不足が蔓延している中で介護離職する人も増えています。介護と仕事の両立を考えていく上でも今後の変化を予測して親や兄弟とコミュニケーション

ンをとるタイミングをつくることが大切です。ちょっと早いかな、言い出しにくいな…と思っても現実を直視して話し合いのタイミングを逃さないようにしましょう。

以前はできていたことができなくなってきた姿を見たとき、モノ忘れがひどくなってきたようだな…、同じ質問を何度も繰り返すことが増えたなと感じたとき、最近元気がないな…、以前の様子と違うな…と感じたとき、親から「最近体の調子が悪い、膝や腰が痛い」という話を頻繁に聞くようになったなど、親の変化に気づいたときは、老後について親とコミュニケーションをとるタイミングです。

子どものほうから親の老後の話をするときは、「親が幸せな老後を送るため」という姿勢を持って話をする

ということが大事なポイントです。「お父さん、お母さんが安全、安心、快適な環境で老後を過ごしてほしい。できることがあればサポートしたいから、希望があれば教えてほしい」という会話から始めることで、信頼関係を築いてスムーズに話が進んでいきます。

親の身になってみれば、たまに会った子どもからいきなり相続や遺産の話をされると不信感を持ち、感情的にこじれてしまうことがあるので、最初のコミュニケーションには十分気をつけましょう。

兄弟がいる場合は、介護の協力関係を築いておくことが大切です。勝手にやっているとと思われるように、事前に親と話し合う内容の共有をしておきましょう。

(株)プライムタイム 代表取締役 坂本敦子)

## 豆 知 識

## ボイラーの水管理 (第 3 回) 水処理に関する障害と防止策

ボイラーの水管理における障害は大別すると、(1) 腐食障害、(2) スケール障害、(3) キャリオーバがあり、これらの障害の主な防止対策について説明する。

### 1. 腐食障害の防止対策

① pH の管理：腐食を防止する上で最も重要な項目である。JIS B 8223 において pH の範囲が設定されており、稼働・停止を繰り返す運転では、停止中の腐食を防止するために、上限値に近づけるよう管理することが推奨される。

② 塩化物イオン等の腐食性有害成分の管理：これらをブローによって標準値以下で、できる限り低く抑えることが望ましい。逆浸透圧 (RO) 装置等の水処理機器を用いて給水の有害成分を除去する方法も有効である。

③ 溶存酸素の除去：薬品や脱気装置により除去する。脱気された水は、空気と接すると直ちに酸素が溶解するので、減圧系統では注意が必要である。溶存酸素を除去する方法に代わり、防食皮膜形成剤を添加することで腐食を防止する方法が採用されることもある。

新規に設置されたボイラーの材料には、製作時の加工や切削による微細な傷が残ри、金属面が露出している。この状態でボイラーの運転を開始すると、これらの部位で腐食が促進されるため、運転後 1～2 ヶ月間程度は、特に水質管理を厳密に行うことが重要である。

昼間に運転し、夜間に停止する等の断続的な運転を行う場合、缶底ブローは運転終了直後ではなく、次の起動直前に行うことで、低 pH かつ酸素を含有する水中での長時間の放置を回避できる。

### 2. スケール障害の防止対策

スケール障害の防止対策には、スケールの生成抑制と、付着スケールの除去がある。以下に対策を示す。

#### 2.1 スケールの生成抑制

① スケール付着を防止する薬剤として、りん酸塩、キレート剤、ポリマー等を使用する。

② スケールの由来となる成分、例えば硬度、シリカ、鉄、

銅等の給水濃度を標準値以下に維持する。

③ ボイラーのブローにより、スケール成分を排除する。

#### 2.2 付着スケールの除去

① 物理 (機械) 的方法：ワイヤーブラシ、チューブクリーナ、ジェット洗浄等により、スケールを取り除く方法である。ボイラーの構造及びスケールの付着状況によっては十分には除去できないことがある。

② 化学的方法：塩酸や有機酸等の薬剤によってスケールを溶解除去するもので、ボイラー停止時に実施する。隅々まで除去できるが、ボイラーの構造材料を腐食するおそれがあるので、腐食抑制剤の使用、中和洗浄の確実な実施が必要である。特に小型貫流ボイラー等の低圧ボイラーでは、本体が小さく構造が複雑なため、化学的方法が適している。

近年では、ボイラーを運転しながらスケールを除去する方法として、スケール除去剤を清缶剤等の通常の処理薬剤と併用する方法が広く用いられるようになっている。スケールの除去に時間がかかる一方で、ボイラーの運転中に実施できるという利点がある。

### 3. キャリオーバの防止対策

キャリオーバ (蒸気が発生する過程で溶解性物質等が蒸気に混入し、蒸気純度の低下、タービンへのシリカ等のスケール付着をもたらす) 発生の原因として、プライミング (ボイラー水が水滴の状態で蒸気に混入する現象) とホーミング (油脂分の混入、全蒸発残留物の高濃度化に伴う泡立) がある。以下に対策を示す。

#### 3.1 プライミング防止のためのボイラーの安定運転

① ボイラーの能力を超過した急激な負荷をかけない。

② ボイラー圧力と水位の安定した運転を行う。

③ 圧力が大きく変動する場合は、ボイラー設備の増強やアキュムレーターの設置、または稼働台数やボイラー運転の制御方法等の検討を行う。

④ 水位が大きく変動する場合は、給水不足や水位制御位置の不具合が考えられ、必要に応じて調整や修理を行う。